



(4,000 円)

実用新案登録願 /

昭和 56 年 2 月 9 日

特許庁長官

島田春樹 殿

1. 考案の名称

ハツホウバル リョウメ ハ カミ
発泡板の両面に貼った紙やすり

2. 考案者

実用新案登録出願人と同じ

フリガナ
住所 (居所)

フリガナ
氏名

3. 実用新案登録出願人

郵便番号

342-0000

フリガナ
住所

サイタマケン ミヤカワ シカグン ヨシカワ マチオオアサ ヒラメ
埼玉県北葛飾郡吉川町大字平沼876番地

フリガナ
氏名

(法人にあっては名称および
代表者の職を記してその氏名)

カワ サキ マサ フカ
川崎将隆

3-107号

4. 添付書類の目録

(1) 明細書

1 通

(2) 図面

1 通

(3) 願書副本

1 通

(4) (

通)

有量



131258

明 細 書

1. 考案の名称 発泡板の両面に貼った紙やすり

2. 実用新案登録請求の範囲

発泡板の両面に、薄様やすりを貼った考案。

3. 考案の詳細な説明

従来、紙やすりは、そのものの使用の際、裏面
あらずに加工が平均的なものならず、やすり面が折れ目
や、指跡等ハムラに磨滅し易く、且薄様ハ大変
に使いづらい等ハ欠点があります。

本考案は、この欠点を除く為ハもって、第1回
に示す様、適当な厚さハ軽くて切り易い、発泡ス
テロール板ハ両面に、紙やすりハ貼合せた
もので、両面貼合せハ長所は、発泡ステロール
板ハ経済的活用と、その割水防止ハ強化にも成り
且、両面の紙やすりの、粒子を運送することによつ
て、やすり仕様に便し合け、出来るもので、

この為、第2回に見る様、カッターナイフ等で
適当な大きさハ切った、本考案ハ板状紙やすりを

使用するなら、上から加圧か下面やすりに、平均してかかる為、従来の紙やすり使用に比べ、はるかに磨減ムラが少なく、上から加圧し動かすのに、板状である為、押え易く且、上側もやすり面である由、手指が滑らなっております。又、発泡スチロール材は、熱伝導性が小さい為、従来のように摩擦熱が、手指に伝わりません。以上説明の様に、従来の紙やすり等と比べ、能率性、使い易さ、使用効果等の長所が、遠かに多いものです。

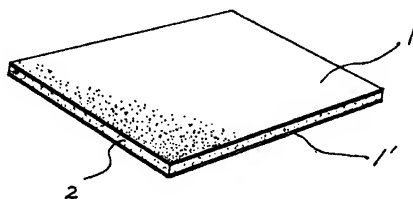
4. 図面への簡単な説明

第1図は本考案の斜視図

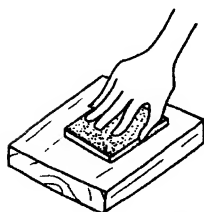
第2図は本考案の平面図

実用新案登録出願人 川崎将隆

面 図



第1図



第2図

實用新案登録出願人 川崎将隆

手続補正書 (方式)

昭和 56 年 5 月 11 日

特許庁長官

殿

1. 事件の表示 昭和 56 年実用新案登録願
第 16051 号
2. 考案の名称 発泡板の両面に貼った紙やすり
3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住所 埼玉県北葛飾郡吉川町大字平沼

氏名 カワサキ ヨシタカ 876 番地 3-107 号
川崎 将隆

- 4.
5. 補正命令の日付 昭和 56 年 4 月 5 日
6. 補正の対象 図面、明細書、願書の全文訂正
7. 補正の内容 別紙へ通り



131258 本



(4,000 円)

実用新案登録願

昭和56年2月9日

特許庁長官

殿

フリガナ ハツホウバン リヨウメン ホ カミ
1. 考案の名称 登壇板の両面に貼った紙やすり

2. 考 案 者

フリガナ
住 所 (居所) 実用新案登録出願人と同じ

フリガナ
氏 名

3. 実用新案登録出願人

郵便番号

342-□□

フリガナ サイタマケンキョウカウシカゲンヨシカワマチオカチヨコ

住 所 埼玉県北葛飾郡芝川町大字平沼876番地3-107号

フリガナ
氏 名 (法人にあっては名称および
(代表者の名を添けてその氏名))

カワ サキ マサ タカ
川崎 隆



4. 添付書類の目録

- | | |
|----------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) (| 通) |

明 細 書

1. 考案の名称 発泡板の両面に貼った紙やすり
2. 実用新案登録請求の範囲
発泡板の両面に、薄様やすりを貼った考案。
3. 考案の詳細な説明

従来、紙やすりは、そのままの使用の際、裏面から加圧が平均にかからず、やすり面が折れ目や、指跡等のムラに磨減し易く、且薄様の為大変に使いづらい等欠点があります。

本考案は、この欠点を除く為のもので、第1図に示す様、適当な厚さの軽くて切り易い、発泡スチロール板(1)の両面に、紙やすり(1)(1)を貼合せたものです。両面貼合せの長所は、発泡スチロール板の経済的活用と、その割れ防止の強化にも成り且、両面の紙やすりの、粒子を運送することによつて、やすり仕様の使い分けが、出来るものです。

この為、第2図に見る様、カッターナイフ等で適当な大きさに切った、本考案の板状紙やすりを使用するなら、上からの加圧が下面やすりに、平

均してかかる為、従来ハ紙やすり使用に比べ、はるかに磨滅ムラが少なく、上から加圧し動かすのは、板状である為、押え易く且、上側モやすり面である由、手指が滑らないモハです。又、発泡スチロール材は、熱伝導性が小さい為、従来ハように磨擦熱が、手指に伝わりません。以上説明ハ様には、従来ハ紙やすり等に比べ、能率性、使い易さ、使用効果等ハ長所が、遙かに多いモハです。

4. 図面の簡単な説明

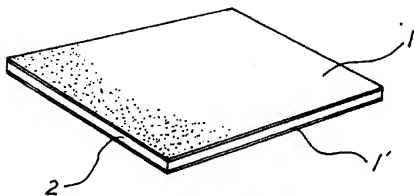
第1図は、本考案ハ斜視図。

第2図は、本考案使用ハ斜視図。

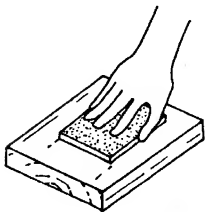
(1)(1')は紙やすり (2)は発泡スチロール板

実用新案登録出願人 川崎将隆

図面



第1図



第2図